

審議事項

		頁
Ⅲ 審議事項		
1 委員会関係	提案1 幹事会附置委員会（科学者に関する国際人権問題委員会）の設置	1
	提案2 若手アカデミー委員会における委員の決定	4
	提案3 IT環境整備推進委員会における委員の決定	5
	提案4 東日本大震災に係る学術調査検討委員会における委員の決定	6
	提案5 科学者委員会における分科会委員の決定	7
	提案6 科学と社会委員会運営要綱の一部改正及び分科会委員の決定	9
	提案7 国際委員会における委員の決定	13
	提案8 分野別委員会の運営要綱の改正及び委員会等委員の決定	14
2 国際会議等関係	提案9 第5回世界科学フォーラム（5th World Science Forum）出席に係る 会員の派遣	41
	提案10 第12回アジア学術会議に関するインドネシア科学院との事前打合せに 係る会員の派遣	43
3 地区会議関係	提案11 各地区会議の運営協議会委員の決定	44
4 シンポジウム等	提案12 「第1回計算力学シンポジウム」	50
	提案13 公開シンポジウム「福島原子力発電所事故への科学者の役割と責任に ついて」	52
	提案14 「東日本大震災—いま、これから求められる看護系学会の活動Part II —」	54
	提案15 「第3回科学技術人材育成シンポジウム」	56
	提案16 「第61回理論応用力学講演会」	58
5 後援	提案17 国内会議の後援について	60

1	
幹事会	139

提 案

幹事会附置委員会（科学者に関する国際人権問題委員会）の設置について

1. 提 案 者 会長
2. 議 案 標記について別紙案のとおり決定すること。
3. 提案理由 国際人権ネットワーク対応委員会を引き継ぎ、科学者に関する国際的な人権状況及び問題に関する事項を審議するため、標記委員会を設置する必要があるため。

科学者に関する国際人権問題委員会運営要綱（案）

平成 23 年 月 日
日本学術会議第 回幹事会決定

（設置）

第 1 科学者に関する国際人権問題委員会（以下「委員会」という。）は、日本学術会議会則第 25 条に基づく委員会として幹事会に附置する。

（任務）

第 2 委員会は、科学者に関する国際的な人権状況及び問題に関する事項を審議する。

（組織）

第 3 委員会は、会長及び副会長 2 名（日本学術会議会則第 5 条第 1 号担当及び同条第 3 号担当）、第一部の 3 名（うち 1 名は役員とする。）の会員及び第二部、第三部の各 2 名（うち 1 名は役員とする。）の会員並びに会長の指名する会員又は連携会員若干名をもって組織する。

（分科会）

第 4 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。

分科会	調査審議事項	構成
国際人権対応分科会	科学者に関する国際的な人権状況及び問題を調査審議し、併せてアカデミー及び学術団体の国際人権ネットワーク（The International Human Rights Network of Academies and Scholarly Societies）への対応に関する事項を審議する。	会員又は連携会員若干名

（庶務）

第 5 委員会の庶務は、事務局参事官（国際業務担当）において処理する。

（雑則）

第 6 この要綱に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

- 1 この決定は、決定の日から施行する。
- 2 国際人権ネットワーク委員会（平成 21 年 7 月 23 日日本学術会議第 80 回幹事会決定）は、廃止する。

幹事会附置委員会の設置について

委員会名： 科学者に関する国際人権問題委員会

1	委員の構成	委員会は、会長及び副会長2名（日本学術会議会則第5条第1号担当及び同条第3号担当）、第一部の3名（うち1名は役員とする。）の会員及び第二部、第三部の各2名（うち1名は役員とする。）の会員並びに会長の指名する会員又は連携会員若干名をもって組織する。
2	設置目的	本委員会では、国際人権ネットワークへの対応について、委員会の役割、仕組み、意思の決定方法等について明確な運営方法を整備し、人権問題について、日本学術会議としてどこまで対応すべきなのかを慎重に検討することを含み、科学者に関する国際的な人権状況及び問題に関する事項を審議することを設置目的とする。
3	審議事項	科学者に関する国際的な人権状況及び問題に関すること
4	設置期間	常設
5	備考	

2	
幹事会	139

提 案

若手アカデミー委員会における委員の決定について

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 若手アカデミー委員会の委員の決定
- 3 提案理由 若手アカデミー委員会における委員の決定をする必要があるため。

記

○委員の決定（新規 1件）

（ 若手アカデミー委員会 ）

氏 名	所属 ・ 職名	備 考
武市 正人	大学評価・学位授与機構教授	第三部会員
唐木 英明	倉敷芸術科学大学学長	連携会員
広渡 清吾	専修大学法学部教授	連携会員
笠井 清登	東京大学大学院医学研究科教授	連携会員
蒲池 みゆき	工学院大学情報学部准教授	連携会員
柴山 敦	秋田大学大学院工学資源学研究科教授	連携会員
杉本 慶子	独立行政法人理化学研究所植物科学研究センター細胞機能研究ユニットユニットリーダー	連携会員
谷口 尚子	東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授	連携会員
豊崎 七絵	九州大学大学院法学研究院准教授	連携会員
林 秀弥	名古屋大学大学院法学研究科准教授	連携会員
松井 秀征	立教大学法学部教授	連携会員
村上 暁信	筑波大学大学院システム情報工学研究科准教授	連携会員
吉田 丈人	東京大学大学院総合文化研究科准教授	連携会員

3	
幹事会	139

提 案

I T環境整備推進委員会における委員の決定について

- 1 提案者 第三部部长
- 2 議案 I T環境整備推進委員会における委員の決定
- 3 提案理由 I T環境整備推進委員会における委員の決定をする必要があるため。

記

○ 委員の決定（追加1件）

（ I T環境整備推進委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
相原 博昭	東京大学大学院理学系研究科教授	第三部会員
萩谷 昌己	東京大学大学院情報理工学系研究科教授	第三部会員

4	
幹事会	139

提 案

東日本大震災に係る学術調査検討委員会における委員の決定について

- 1 提案者 第一部部長、第二部部長、第三部部長
- 2 議 案 東日本大震災に係る学術調査検討委員会における委員の決定
- 3 提案理由 東日本大震災に係る学術調査検討委員会における委員を決定するため

記

○ 委員の決定（追加 1件）

（東日本大震災に係る学術調査検討委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
武市 正人	大学評価・学位授与機構教授	副会長
友枝 敏雄	大阪大学大学院人間科学研究科長・教授	第一部会員
杉田 敦	法政大学法学部教授	第一部会員
山下 俊一	福島県立医科大学・副学長	第二部会員
渡部 終五	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第二部会員
大久保 修平	東京大学地震研究所教授・高エネルギー素粒子地球物理学研究センター長	第三部会員
和田 章	東京工業大学名誉教授	第三部会員

5	
幹事会	139

提 案

科学者委員会における分科会委員の決定について

- 1 提案者 科学者委員会委員長、第三部部长
- 2 議 案 科学者委員会における分科会委員の決定
- 3 提案理由 科学者委員会における分科会委員を決定する必要があるため。

記

○委員の決定（追加 3件）

（ 科学者委員会学術体制分科会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
辻村 みよ子	東北大学大学院法学研究科教授	第一部会員 科学者委員会推薦
松沢 哲郎	京都大学霊長類研究所所長・教授	第一部会員 科学者委員会推薦
竹縄 忠臣	神戸大学大学院医学系研究科脂質・生化学分野特命教授	第二部会員 科学者委員会推薦
桃井 真理子	自治医科大学小児科学主任教授・医学部長	第二部会員 科学者委員会推薦
北里 洋	独立行政法人海洋研究開発機構海洋・極限環境生物圏領域長	第三部会員 科学者委員会推薦
氷見山 幸夫	北海道教育大学教育学部教授	第三部会員 科学者委員会推薦

（ 科学者委員会広報分科会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
渡辺 美代子	株式会社東芝経営変革統括責任者	第三部会員 第三部推薦

(科学者委員会知的財産検討分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
桃井 眞理子	自治医科大学小児科学主任教授・医学部長	第二部会員 科学者委員会推薦
荒川 泰彦	東京大学先端科学技術研究センター教授	第三部会員 科学者委員会推薦

6	
幹事会	139

提 案

科学と社会委員会運営要綱の一部改正及び分科会委員の決定について

- 1 提案者 科学と社会委員会委員長
- 2 議 案 (1) 科学と社会委員会運営要綱の一部改正
(2) 科学と社会委員会における分科会委員の決定
- 3 提案理由 (1) 科学と社会委員会における「知の航海」分科会の設置に伴い運営要綱を一部改正する必要があるため。
(2) 科学と社会委員会における分科会（科学力増進分科会）委員を決定する必要があるため。

科学と社会委員会運営要綱（平成 17 年 10 月 4 日第 1 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄の掲げる規定をこれに対応する改正後の欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改正後			改正前		
(分科会) 第2 委員会に、次の表のとおり分科会及び小委員会を置く。			(分科会) 第2 委員会に、次の表のとおり分科会及び小委員会を置く。		
分科会等	調査審議事項	構成	分科会等	調査審議事項	構成
科学力増進分科会	国民の科学力増進に関すること	各部の2名以内の会員及び委員会の委員3名並びに幹事会が必要と認める連携会員若干名	科学力増進分科会	国民の科学力増進に関すること	各部の2名以内の会員及び委員会の委員3名並びに幹事会が必要と認める連携会員若干名
科学力増進分科会科学技術リテラシー小委員会	科学技術リテラシー像の策定等に関すること	副会長（日本学術会議会則第5条第2号担当）及び分科会の長が必要と認める会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者50名以内	科学力増進分科会科学技術リテラシー小委員会	科学技術リテラシー像の策定等に関すること	副会長（日本学術会議会則第5条第2号担当）及び分科会の長が必要と認める会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者50名以内
年次報告等検討分科会	年次報告書の執筆・編集及び外部評価に関すること	副会長（日本学術会議会則第5条第2号担当）及び各部1名並びに幹事会が必要と認める連携会員若干名	年次報告等検討分科会	年次報告書の執筆・編集及び外部評価に関すること	副会長（日本学術会議会則第5条第2号担当）及び各部1名並びに幹事会が必要と認める連携会員若干名
「 <u>知の航海</u> 」分科会	「 <u>知の航海</u> 」シリーズに関すること	副会長（日本学術会議会則第5条第2号担当）及び幹事会が必要と認める会員又は連携会員の者6名以内	(新規設置)		

附則

この決定は、決定の日から施行する。

科学と社会委員会分科会の設置について

分科会等名： 「知の航海」分科会

1	所属委員会名	科学と社会委員会
2	委員の構成	副会長（日本学術会議会則第5条第2号担当）及び幹事会が必要と認める会員又は連携会員の者6名以内
3	設置目的	<p>学術の先端的な情報や新たな知の展望を、若い世代等にアクセス可能な水準と平易な表現で提供して学術への新鮮な関心を惹起することは極めて重要である。</p> <p>「知の航海」シリーズは、学術のフロンティアに誘い、現代社会の難問を学術の立場から深く理解する手掛かりを提供するとともに、読者がこれらの解決方法を自ら模索するきっかけを提供するものである。</p> <p>第21期においては、科学と社会委員会の委員数名で「知の航海」シリーズの企画を行ってきたところであるが、第22期からは、委員以外の会員、連携会員の知見も活用しつつ、更なる充実を図るため、新たな分科会として設置するものである。</p>
4	審議事項	「知の航海」シリーズに関すること
5	設置期間	常設
6	備考	

○委員の決定（追加 1件）

（ 科学と社会委員会 科学力増進分科会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
吉川 洋	東京大学大学院経済学研究科教授	第一部会員
生源寺 眞一	名古屋大学農学部・大学院生命農学研究科教授	第二部会員
黒田 玲子	東京大学大学院総合文化研究科生命環境科学系教授	第三部会員

7	
幹事会	139

提 案

国際委員会における委員の決定について

- 1 提案者 国際委員会委員長
- 2 議 案 国際委員会の委員の決定
- 3 提案理由 国際委員会における委員の決定をする必要があるため。

記

○委員の決定（追加 1件）

（国際委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
白田 佳子	筑波大学大学院ビジネス科学研究科国際 経営プロフェッショナル専攻教授	第一部会員
唐木 英明	倉敷芸術科学大学学長	連携会員

8	
幹事会	139

提 案

分野別委員会の運営要綱の改正及び委員会等委員の決定について

- 1 提案者 (議案(1)について)
心理学・教育学委員会委員長、史学委員会委員長、法学委員会委員長、
政治学委員会委員長、経営学委員会委員長、基礎生物学委員会委員長、
統合生物学委員会委員長、農学委員会委員長、食料科学委員会委員長、
健康・生活科学委員会委員長、薬学委員会委員長

(議案(2)について)
第一部部長、第二部部長、第三部部長
- 2 議 案 (1) 分野別委員会運営要綱の一部改正
(2) 分野別委員会、分科会の委員の決定
- 3 提案理由 分野別委員会における分科会の設置等に伴い運営要綱を一部改正し、委員の決定をする必要があるため。

分野別委員会運営要綱(平成23年9月1日日本学術会議第133回幹事会決定)の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改正後					改正前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考
(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)	
心理学・教育学委員会	(略)	(略)	(略)		心理学・教育学委員会	(略)	(略)	(略)	
	心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会	健康・生活科学委員会に記載	健康・生活科学委員会に記載		心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会	健康・生活科学委員会に記載	健康・生活科学委員会に記載	健康・生活科学委員会に記載	
	心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会調査小委員会	健康・生活科学委員会に記載	健康・生活科学委員会に記載		心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会調査小委員会	健康・生活科学委員会に記載	健康・生活科学委員会に記載	健康・生活科学委員会に記載	
	心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会成育空間に関する政策提案検討小委員会	健康・生活科学委員会に記載	健康・生活科学委員会に記載		心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会成育空間に関する政策提案検討小委員会	健康・生活科学委員会に記載	健康・生活科学委員会に記載	健康・生活科学委員会に記載	
	心理学・教育学委員会 社会のための心理学分科会	社会のための心理学を展開するために必要な教育・資格・学術行政に係る審議に関すること	10名以内の会員又は連携会員		(新規設置)				
心理学・教育学委員会 発達心理学分科会	発達の法則性と個人差の多様性を踏まえ、個人、社会、および環境に関わる重要課題に係る審議に関すること	15名以内の会員又は連携会員		(新規設置)					

	心理学・教育学委員会 子ども・子育て環境の質 保証のあり方検討分科 会	1. 乳幼児期から初等教 育における経済格差にお ける子どもの保育・教育 の平等と質のあり方 2. 日本の文化に即した 子ども子育て環境及び制 度のあり方の具体的な方 策に係る審議に関するこ と	15名以内の 会員又は連 携会員	
(略)	(略)	(略)	(略)	
史学委員会	(略)	(略)	(略)	
	史学委員会文化財の保 護と活用に関する分科 会	(1)現状における文化財 の保護の検討 (2)現状における文化財 の活用の検討	20名以内の 会員又は連 携会員	
	史学委員会歴史資料の 保存・管理と公開に関す る分科会	1. 3. 11後の被災文書 の復旧とその後の復興 2. アーカイブズ制度の 確立 に係る審議に関すること	20名以内の 会員又は連 携会員	
(略)	(略)	(略)	(略)	
法学委員会	(略)	(略)	(略)	
	社会学委員会・法学委 員会・政治学委員会・経 済学委員会・経営学委 員会合同社会科学統合 データベース分科会	政治学委員会に記載	政治学委員 会に記載	
	法学委員会「大震災後 の安全安心な社会構築 と法」分科会	1. 憲法の生存権、環境 権とのかかわり 2. 国と地方との関係、地 方自治のあり方 3. 地域における土地利 用計画、制限のあり方 4. 雇用分野でのセーフ ティネット 5. 持続可能な社会保障 制度の構築 6. 国際社会に対する日 本の使命 7. 安全を守るための民 間での取り組みを支える 法システム 8. コミュニティの再生・共 生と男女共同参画 などに係る審議に関する こと	20名以内の 会員又は連 携会員	設置期間： 平成23年10 月28日～平 成26年3月 31日

	(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	
史学委員会	(略)	(略)	(略)	
	史学委員会文化財の保 護と活用に関する分科 会	(1)現状における文化財 の保護の検討 (2)現状における文化財 の活用の検討	20名以内の 会員又は連 携会員	
	(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	
法学委員会	(略)	(略)	(略)	
	社会学委員会・法学委 員会・政治学委員会・経 済学委員会・経営学委 員会合同社会科学統合 データベース分科会	政治学委員会に記載	政治学委員 会に記載	
	(新規設置)			

	法学委員会ジェンダー法分科会	1. ジェンダー法学教育・ジェンダー法研究者育成の課題 2. ジェンダー法研究手法論の検討 3. 学術分野とジェンダーなどに係る審議に関すること	15名以内の会員又は連携会員	設置期間: 平成23年10月28日～平成26年9月30日
政治学委員会	(削除)	(削除)	(削除)	
	(削除)	(削除)	(削除)	
	政治学委員会政治思想・政治史分科会	(略)	(略)	
	(略)	(略)	(略)	
	(削除)	(削除)	(削除)	
	(略)	(略)	(略)	
(略)	(略)	(略)	(略)	
経営学委員会	社会学委員会・法学委員会・政治学委員会・経済学委員会・経営学委員会合同社会科学統合データベース分科会	政治学委員会に記載	政治学委員会に記載	

(新規設置)				
政治学委員会	政治学委員会民主主義と信頼分科会	日本の民主主義における信頼や法治の研究に関すること	5名以内の会員及び30名以内の連携会員	
	政治学委員会政治理論分科会	・個人間・国家間における紛争解決など政治現象に関する理論的課題の審議 ・高等教育機関及び地域・社会における政治理論教育のあり方に関する審議	10名以内の会員又は連携会員	
	政治学委員会政治思想分科会	(略)	(略)	
	(略)	(略)	(略)	
	政治学委員会政治史分科会	・過去の政治現象に関する歴史的解明とそれに基づく政治的対立を解消する課題の審議 ・高等教育機関及び地域・社会における政治史教育のあり方に関する審議	10名以内の会員又は連携会員	
	(略)	(略)	(略)	
(略)	(略)	(略)	(略)	
経営学委員会	社会学委員会・法学委員会・政治学委員会・経済学委員会・経営学委員会合同社会科学統合データベース分科会	政治学委員会に記載	政治学委員会に記載	

	経営学委員会「リスクを科学する」分科会	1. 学際的リスク概念の整理 2. リスクの範囲、リスク分析手法、リスクへの対応方法、リスクマネジメントに関わる具体的内容の審議 3. 提言に係る審議に関すること	15名以内の会員又は連携会員	設置期間: 平成23年10月28日～平成26年9月30日
基礎生物学委員会	(略)	(略)	(略)	
	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオフィオマティクス分科会	統合生物学委員会に記載	統合生物学委員会に記載	
	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同ワールドライフサイエンス分科会	統合生物学委員会に記載	統合生物学委員会に記載	
統合生物学委員会	(略)	(略)	(略)	
	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオフィオマティクス分科会	バイオフィオマティクスによって生物学研究を高度に能率化する方法と手段の審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	
	基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同ワールドライフサイエンス分科会	人間と野生生物との調和的共存を図るためのワールドライフサイエンスの確立とその社会的普及に係る審議に関すること	15名以内の会員又は連携会員	
農学委員会	(略)	(略)	(略)	
	農学委員会植物保護科学分科会	植物保護に関わる研究について総合的・多面的に検討すること	20名以内の会員又は連携会員	
	農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会	遺伝子組換え作物の現状と今後の展望に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	
食料科学委員会	(略)	(略)	(略)	

	(新規設置)			
基礎生物学委員会	(略)	(略)	(略)	
	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオフィオマティクス分科会	統合生物学委員会に記載	統合生物学委員会に記載	
	(新規設置)			
統合生物学委員会	(略)	(略)	(略)	
	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオフィオマティクス分科会	バイオフィオマティクスによって生物学研究を高度に能率化する方法と手段の審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	
	(新規設置)			
農学委員会	(略)	(略)	(略)	
	農学委員会植物保護科学分科会	植物保護に関わる研究について総合的・多面的に検討すること	20名以内の会員又は連携会員	
	(新規設置)			
食料科学委員会	(略)	(略)	(略)	

	農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同食の安全分科会	食の安全に関する分野の学協会等の連絡・連携、及び当該分野の発展を期すための調査審議並びに情報発信に関すること	20名以内の会員又は連携会員	
	農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会	農学委員会に記載	農学委員会に記載	
(略)	(略)	(略)	(略)	
健康・生活科学委員会	(略)	(略)	(略)	
	健康・生活科学委員会看護学分科会	・社会における新たな看護ニーズに対応した課題 ・看護に関する基礎・継続・卒後教育の検討	25名以内の会員又は連携会員	
	健康・生活科学委員会家政学分科会	近接学問分野の成果を統合しながら「人と人」「人と物」「物と物」の関係について、人のくらしの立場から研究を行うという設置目的実現のために必要な活動に対する連携・協力、及び教育の発展に係る審議に関すること	(略)	
(略)	(略)	(略)	(略)	
薬学委員会	(略)	(略)	(略)	
	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会	統合生物学委員会に記載	統合生物学委員会に記載	
	薬学委員会薬学教育分科会	我が国の薬学における創薬力及び育薬力を高めるため、6年制及び4年制薬学学部教育及びそれぞれに基礎を置く大学院教育が現在直面している諸問題に係る審議に関すること	20名以内の会員又は連携会員	設置期間： 平成23年10月28日～平成26年9月30日

	農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同食の安全分科会	食の安全に関する分野の学協会等の連絡・連携、及び当該分野の発展を期すための調査審議並びに情報発信に関すること	20名以内の会員又は連携会員	
(新規設置)				
(略)	(略)	(略)	(略)	
健康・生活科学委員会	(略)	(略)	(略)	
	健康・生活科学委員会看護学分科会	・社会における新たな看護ニーズに対応した課題 ・看護に関する基礎・継続・卒後教育の検討	25名以内の会員又は連携会員	
	健康・生活科学委員会生活科学分科会	生活科学研究分野の総合化による問題解決を志向した連携・協力、及び教育の発展のための審議に関すること	(略)	
(略)	(略)	(略)	(略)	
薬学委員会	(略)	(略)	(略)	
	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同バイオインフォマティクス分科会	統合生物学委員会に記載	統合生物学委員会に記載	
(新規設置)				

	<p>薬学委員会チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会</p>	<p>高度化した医療、また変化の激しい社会・産業構造のもとで、化学を基盤に薬物治療を通じて医療に貢献する薬剤師の高度かつ新しい職能のあり方と、高度な職能を持つ薬剤師の育成に向けたキャリアパス制度の整備の方策に係る審議に関すること</p>	<p>20名以内の会員又は連携会員</p>	<p>設置期間: 平成23年10月28日～平成26年9月30日</p>	(新規設置)				
(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)	

附則

この決定は、決定の日から施行する。

心理学・教育学委員会分科会の設置について

分科会等名：社会のための心理学分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	心理学・教育学委員会
2	委員の構成	10名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	現代社会が直面する多様な課題の解決について心理学の視点から寄与するためのプラットフォームづくりを目的とする。心理学を文理融合の扇の要と位置付けて、多様な課題について分野横断的なアプローチを掲げ、社会に資する心理学の研究・教育・社会貢献を行う。具体的な課題としては、「科学的心理学」の社会的理解の促進、心理学分野からの学術行政への諸提言とその実装に向けた活動の展開、心理学関連の資格問題の展望を行う。
4	審議事項	社会のための心理学を展開するために必要な教育・資格・学術行政に係る審議に関すること
5	設置期間	時限設置 年 月 日～ 年 月 日
		常設
6	備考	

心理学・教育学委員会分科会の設置について

分科会等名：発達心理学分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	心理学・教育学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	加齢に伴う身体的、認知的、情動的、社会的活動の発達的变化は霊長類としての人類共通の道筋にしたがうとともに、その歩みの速度や様式には個人差がきわめて大きい。 このような発達の法則性と個人差の多様性の理解は、望ましい社会の在り方や、必要な発達支援の在り方を考える上で不可欠である。本分科会は、発達という視座に立ち、人の心の法則性と多様性の解明作業を進めるとともに、その成果に基づき、さまざまな社会的問題の解決に向けた提言を行うことを目指す。
4	審議事項	発達の法則性と個人差の多様性を踏まえ、個人、社会、および環境に関わる重要課題に係る審議に関すること
5	設置期間	時限設置 平成 年 月 日～ 年 月 日 常設
6	備考	

心理学・教育学委員会分科会の設置について

分科会等名： 子ども・子育て環境の質保証のあり方検討分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	心理学・教育学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	今日、地域格差、家庭における経済格差が進行しており、人生早期からの発達格差、教育格差が問題とされてきている。その中で公共の制度としての園や学校におけるすべての子どもに対する保育、教育の質と平等の保証、養育としての子育て環境の質保証、教育と福祉制度の統合的観点からの学術的検討が必要である。子ども子育て新システムや教育改革の政策において貧困格差や地域格差問題は指摘されてきているが、それらに対する明確な方策提言は出されていない。また改革の議論も、日本独自の保育・教育思想や家族制度の歴史的伝統や卓越性にもとづくものとはいえない。今後の日本社会において持続可能な、子どもの保育・教育と養育環境の質向上の方向性にむけた具体施策を諸関連分野の動向を含めて審議検討し、保育教育養育に関する社会文化的環境のグランドデザインを提言することが、本分科会の設置目的である。
4	審議事項	1. 乳幼児期から初等教育における経済格差における子どもの保育・教育の平等と質のあり方 2. 日本の文化に即した子ども子育て環境及び制度のあり方の具体的な方策 に係る審議に関すること
5	設置期間	期限設置 年 月 日～ 年 月 日 常設
6	備考	必要により特任連携会員を依頼する。第2部、第3部からも委員を募る。

史学委員会分科会の設置について

分科会等名：歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	史学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>現在も恒常的に発生し続けている文書(記録)は、公文書・私文書を問わず将来の歴史資料となる。その何を残し、何を廃棄するかを選別し、これらを保存・管理・公開する任務を担う人材をアーキビストといい、こうしたしくみをアーカイブズ制度という。この制度が歴史学研究にとって重要な意味をもつことは言を俟たないが、我が国のアーカイブズ制度は国際的に最も後発で、整備が遅れており、社会的認識も十分ではない。</p> <p>本分科会では、すでに歴史資料として認識されている古文書などの保存・管理・公開問題と合わせ、将来の歴史資料となる現用文書も含めた全般にわたる保存・管理・公開に関する検討を主たる課題として取り組む。</p>
4	審議事項	<p>1. 3. 11後の被災文書の復旧とその後の復興</p> <p>2. アーカイブズ制度の確立</p> <p>に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	<p>時限設置 年 月 日～ 年 月 日</p> <p>常設</p>
6	備考	

法学委員会分科会の設置について

分科会等名： 「大震災後の安全安心な社会構築と法」分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	法学委員会				
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員				
3	設置目的	3.11の大震災後の日本社会は、被災地域における速やかな復興という課題と同時に、今後、想定される大災害に備える安全なまちづくりと、災害の被害を最小限に抑え人々が安心して暮らすことができるセーフティネットを組み込んだ社会の構築が強く求められている。このような防災と減災の両方の視点から大震災後の安全な社会構築をするための法のあり方について、多方面の法学分野（憲法、行政法、労働法、社会保障法、国際法、法社会学、比較法学等基礎法）から検討を行う。				
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法の生存権、環境権とのかかわり 2. 国と地方との関係、地方自治のあり方 3. 地域における土地利用計画、制限のあり方 4. 雇用分野でのセーフティネット 5. 持続可能な社会保障制度の構築 6. 国際社会に対する日本の使命 7. 安全を守るための民間での取り組みを支える法システム 8. コミュニティの再生・共生と男女共同参画などに係る審議に関すること 				
5	設置期間	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">時限設置</td> <td>平成23年10月28日～平成26年3月31日</td> </tr> <tr> <td>常設</td> <td></td> </tr> </table>	時限設置	平成23年10月28日～平成26年3月31日	常設	
時限設置	平成23年10月28日～平成26年3月31日					
常設						
6	備考					

法学委員会分科会の設置について

分科会等名：ジェンダー法分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	法学委員会				
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員				
3	設置目的	ジェンダー法学会等を中心とした活動により、法学分野の諸課題のジェンダー視点による再検討が進められてきたが、なお、課題は多い。とくに、ジェンダー法研究者の育成やジェンダー法学教育のあり方については、いっそうの検討が必要とされている。日本学術会議では、第一部を中心に領域横断的な「ジェンダー研究分科会」(仮称)の設置が予定されており、それと連携して活動するためにも、ジェンダー法分科会を設置して法学の観点からこの問題を検討していくことが必要である。				
4	審議事項	1. ジェンダー法学教育・ジェンダー法研究者育成の課題 2. ジェンダー法研究方法論の検討 3. 学術分野とジェンダーなどに係る審議に関すること				
5	設置期間	<table border="1"> <tr> <td>時限設置</td> <td>平成23年10月28日～平成26年9月30日</td> </tr> <tr> <td>常設</td> <td></td> </tr> </table>	時限設置	平成23年10月28日～平成26年9月30日	常設	
時限設置	平成23年10月28日～平成26年9月30日					
常設						
6	備考					

政治学委員会分科会の設置について

分科会等名： 政治思想・政治史分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	政治学委員会
2	委員の構成	10名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>政治学研究には、政治や社会が本来、如何にあるべきかを考え、現実の政治や社会が目指す方向性を検討する視点がある。本分科会は、こうした視点に立った政治思想・政治史研究についての見解や主張を多角的に検討し、様々な課題を抱える現実の政治社会に対する提言を行うことを目標としている。さらに本分科会では、高等研究機関のみならず、地域や社会における政治思想・政治史教育のあり方についても検討し、必要な提言を行うことにしたい。これらの目的により、本分科会を設置することにしたい。</p> <p>なお、従来独立していた政治思想分科会と政治史分科会を統合することにより、規範的な研究と実証的な研究とをより有機的に結びつけることができると考え、名称変更を求める次第である。</p>
4	審議事項	<p>1) 個人と政治社会のあるべき関係など政治現象に関する思想的課題の審議</p> <p>2) 高等教育機関及び地域・社会における政治思想教育のあり方に関する審議</p>
5	設置期間	<p>期限設置 年 月 日～ 年 月 日</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 常設</p>
6	備考	隣接領域について特任連携会員を依頼することがある

経営学委員会分科会の設置について

分科会等名： 「リスクを科学する」分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	経営学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	現代社会においては、国家、企業、個人などいずれの主体や組織も様々なリスクに直面している。また、それぞれの分野からリスクに関する対応方法が多様に発信されている。一方社会から発信されるリスク概念は、表層的かつ感覚的に用いられている印象が強い。そこで、本分科会は学術的側面から経営・経済分野のみならず、広く数学系や情報系、心理学系、工学系、農学系、医学系も含め幅広い分野の科学者の意見を整理することにより学際的なリスク概念を取り纏めることを目的とするものである。このように多分野に亘る科学者の意見を集約し、恒久的かつ一般化されたリスク概念を定義することは、これまでなされておらず意義のあるものである。本分科会では分野を超えてリスクに関わる知識共有を可能な限り行う。
4	審議事項	1. 学際的リスク概念の整理 2. リスクの範囲、リスク分析手法、リスクへの対応方法、リスクマネジメントに関わる具体的内容の審議 3. 提言に係る審議 に関すること
5	設置期間	時限設置 平成23年10月28日～平成26年9月30日 常設
6	備考	

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同分科会の設置について

分科会等名

：基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同ワイルドライフサイエンス分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	基礎生物学委員会 ○統合生物学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)において、日本が提案した長期ビジョン「自然と共生する世界」、中期ミッション「生物多様性の損失を食い止めるため効果的かつ緊急に行動をとる」、およびそれを2020年までに達成するための20の愛知目標が採択された。その中には、学術領域が主体的に寄与すべき目標「生物多様性に関連する知識、科学的基礎および技術が改善され、共有され、適用される」が含まれており、新たな研究領域としてのワイルドライフサイエンスの早急な確立と野外教育を通じた普及を含む社会貢献が求められている。本分科会は、絶滅危惧種、外来種、日本固有種等を主な対象とする多様なワイルドライフ研究をマクロ的包括的な視点で統合的に収斂させて社会的な実践につなげることで世界目標に貢献する一方、我が国の生物学とその教育をいっそう豊かに発展させるための具体的な方策を探ることを目的とする。
4	審議事項	人間と野生生物との調和的共存を図るためのワイルドライフサイエンスの確立とその社会的普及に係る審議に関すること
5	設置期間	時限設置 年 月 日～ 年 月 日 常設
6	備考	

農学委員会・食料科学委員会合同分科会の設置について

分科会等名：農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○農学委員会 食料科学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	遺伝子組換え作物は、世界的な人口増加時代の食料・エネルギー問題解決のための有効な技術として開発が進んでおり、すでに多くの国々で急速に普及している。また、食料品、添加物、各種工業資源として、かなりの量の遺伝子組換え作物が日本にも輸入されているが、我が国では市民の理解が進んでいるとはいえないのが現状である。本分科会は「遺伝子組換え作物の現状と今後の展望」について科学者の立場で議論することを目的としている。
4	審議事項	「遺伝子組換え作物の現状と今後の展望」に係る審議に関すること。
5	設置期間	時限設置 年 月 日～ 年 月 日 常設
6	備考	

健康・生活科学委員会分科会の設置について

分科会等名： 家政学分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	健康・生活科学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>家政学は、人間生活における人と環境との相互作用について、人的・物的両面から研究し、生活の質の向上と人類の福祉に貢献する実践的総合科学である。関連する人文・自然科学の研究分野や社会の諸問題を、生活する人間側からの視点を基にしたアプローチにより統合的に捉える学問であり、このような方向性は、他の学術分野のアプローチと補完し合いながら、現代の変化に富む社会のニーズに対応するものである。人の暮らしや生き方に関連する今日的課題を総合的に検討し、全ての人が健康で生き甲斐を持って人生を全うするための方策を生活者視点に立って提案するために、本分科会を設置する。</p> <p>(名称変更理由)</p> <p>家政学は、「人と人」「人と物」「物と物」の関係について、人の暮らしの立場から研究を行う学問分野である。しかし、家政学の名称について、「料理・裁縫」と言った狭いテクニックを対象としたものであるとの間違った印象があることを払拭するために、20年前に生活科学への名称変更の議論があり、多くの学部が名称を変更した。また、それ以後、家政学＝生活科学と言った使われ方もしてきた。しかし、20年が経過した現在も「生活科学」の学問分野としての定義は曖昧で、むしろ拡散し漠としたものとなっており、社会的な認知度も低い。これは、人間の生活に近接した学問分野（工学、農学、医学、社会学、心理学等）の研究の一部が、生産や社会政策の立場から経済的効果や効率、簡便性等の追求の視点で行われたものや、単なる学問的興味のみで行われたにも係わらず、「生活科学」の名称を冠したり、研究の場を生活科学の学部に求めたことによるものであると考えられる。</p> <p>また、文部科学省においては、学問分野として家政学の名称を使用している。本分科会での活動は、近接学問分野の成果を統合しながらも、「人の暮らし」に視座を置くものであることを明確化するために、今回名称を変更したいと考えた。</p>

4	審 議 事 項	近接学問分野の成果を統合しながらも「人と人」「人と物」「物と物」の関係について、人のくらしの立場から研究を行うという設置目的実現のために必要な活動に対する連携・協力、及び教育の発展に係る審議に関すること
5	設 置 期 間	時限設置 年 月 日～ 年 月 日
6	備 考	常設

薬学委員会分科会の設置について

分科会等名：薬学教育分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	薬学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	医療の高度化に対する社会の要請に対応するため、6年制及び4年制薬学学部教育を基盤とした薬学人養成体系について検討するとともに、創薬研究者・技術者、薬剤師、臨床(育薬)研究者、環境衛生分野や行政で活躍する人材などを含み、魅力ある医療人を育てるための諸方策を推進する。
4	審議事項	我が国の薬学における創薬力及び育薬力を高めるため、6年制及び4年制薬学学部教育及びそれぞれに基礎を置く大学院教育が現在直面している諸問題に係る審議に関すること。
5	設置期間	時限設置 平成23年10月28日～平成26年9月30日 常設
6	備考	

薬学委員会分科会の設置について

分科会等名： チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	薬学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	6年制学部教育を基盤とする新薬学教育制度により生まれる高度な医療知識と技術を有し医療現場にも精通した薬剤師が、チーム医療を基盤とする将来の医療体制の中で担うべき職能と、キャリア形成のために必要な諸方策について検討を行うと共に、医学等関連分野の研究者と情報交換を行う。
4	審議事項	高度化した医療、また変化の激しい社会・産業構造のもとで、化学を基盤に薬物治療を通じて医療に貢献する薬剤師の高度かつ新しい職能のあり方と、高度な職能を持つ薬剤師の育成に向けたキャリアパス制度の整備の方策に係る審議に関すること。
5	設置期間	時限設置 平成23年10月28日～平成26年9月30日 常設
6	備考	

○委員の決定（新規6件）

（ 言語・文学委員会・哲学委員会・史学委員会合同アジア研究・対アジア関係に関する分科会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
久保 亨	信州大学人文学部教授	第一部会員
小松 久男	東京大学大学院人文社会系研究科教授	第一部会員
岸本 美緒	お茶の水女子大学文教育学部教授	連携会員
君島 和彦	東京学芸大学名誉教授・前ソウル大学校師範大学教授	連携会員
小谷 汪之	東京都立大学名誉教授	連携会員
斎藤 明	東京大学大学院人文社会系研究科教授	連携会員
高見澤 磨	東京大学東洋文化研究所教授	連携会員
月脚 達彦	東京大学大学院総合文化研究科准教授	連携会員
土田 健次郎	早稲田大学文学学術院教授	連携会員
中野 聡	一橋大学大学院社会学研究科教授	連携会員
羽田 正	東京大学東洋文化研究所長・教授	連携会員
三谷 博	東京大学大学院総合文化研究科教授	連携会員
村井 章介	東京大学大学院人文社会系研究科教授	連携会員
桃木 至朗	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授	連携会員
矢野 道雄	京都産業大学文化学部教授	連携会員

（ 法学委員会立法学分科会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
井田 良	慶應義塾大学大学院法務研究科教授	第一部会員
井上 達夫	東京大学大学院法学政治学研究科教授	第一部会員
奥田 香子	近畿大学法科大学院教授	連携会員

加藤 雅信	上智大学法科大学院教授	連携会員
齋藤 純一	早稲田大学政治経済学術院教授	連携会員
中窪 裕也	一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授	連携会員
中東 正文	名古屋大学大学院法学研究科教授	連携会員
西原 博史	早稲田大学社会科学総合学術院教授	連携会員
橋本 努	北海道大学大学院経済学研究科准教授	連携会員
松原 芳博	早稲田大学大学院法務研究科教授	連携会員
山田 八千子	中央大学法科大学院教授	連携会員
山本 和彦	一橋大学教授	連携会員

(経営学委員会「リスクを科学する」分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
翁 百合	株式会社日本総合研究所理事	第一部会員
川本 明人	広島修道大学商学部教授	第一部会員
白田 佳子	筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授	第一部会員
藤本 隆宏	東京大学大学院経済学研究科教授・同ものづくり経営研究センター長	第一部会員
春日 文子	国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部室長	第二部会員
福井 次矢	聖路加国際病院院長	第二部会員
蟹江 章	北海道大学大学院経済学研究科教授	連携会員
唐木 英明	倉敷芸術科学大学学長	連携会員
寶木 和夫	株式会社日立製作所横浜研究所主管研究長	連携会員
椿 広計	情報・システム研究機構統計数理研究所副所長・リスク解析戦略研究センター長・教授	連携会員
西尾チヅル	筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授	連携会員

野城 智也	東京大学生産技術研究所教授	連携会員
土生 英里	山口大学経済学部准教授	連携会員

(基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同ワイルドライフサイエンス分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
松沢 哲郎	京都大学霊長類研究所・所長	第一部会員
長谷川 寿一	東京大学大学院総合文化研究科教授	第一部会員
吉川 泰宏	北里大学獣医学科教授	第二部会員
鷺谷 いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第二部会員
長谷川 眞理子	総合研究大学院大学先端科学研究科教授	連携会員
三浦 慎悟	早稲田大学人間科学学術院教授	連携会員
村山 美穂	京都大学野生動物研究センター教授	連携会員
山極 寿一	京都大学大学院理学研究科教授	連携会員

(農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
西澤 直子	東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授・石川県立大学生物資源工学研究所所長	第二部会員
福田 裕穂	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授	第二部会員
石毛 光雄	独立行政法人農業生物資源研究所理事長	連携会員
射場 厚	九州大学理学研究院教授	連携会員
大杉 立	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	連携会員
鎌田 博	筑波大学大学院生命環境科学研究科教授	連携会員
河野 重行	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授	連携会員
三枝 正彦	豊橋技術科学大学先端農業バイオリサーチセンター特任教授	連携会員
佐藤 文彦	京都大学大学院生命科学研究科全能性統御機構学教授	連携会員
塚谷 裕一	東京大学大学院理学系研究科教授	連携会員
野並 浩	愛媛大学農学部教授	連携会員

(物理学委员会天文学・宇宙物理学分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
須藤 靖	東京大学大学院理学系研究科教授	第三部会員
永原 裕子	東京大学大学院理学系研究科教授	第三部会員
観山 正見	自然科学研究機構国立天文台台長	第三部会員
井上 一	文部科学省宇宙開発委員会委員	連携会員
岡村 定矩	東京大学大学院理学系研究科教授	連携会員
奥村 幸子	自然科学研究機構国立天文台准教授	連携会員
面高 俊宏	鹿児島大学大学院理工学研究科教授	連携会員
海部 宣男	放送大学教授	連携会員
梶田 隆章	東京大学宇宙線研究所教授	連携会員
國枝 秀世	名古屋大学大学院理学研究科研究科長・教授	連携会員
小山 勝二	京都大学名誉教授	連携会員
佐藤 勝彦	自然科学研究機構機構長	連携会員
芝井 広	大阪大学大学院理学研究科教授	連携会員
柴田 一成	京都大学大学院理学研究科附属天文台台長・教授	連携会員
杉山 直	名古屋大学大学院理学研究科教授	連携会員
中川 貴雄	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授	連携会員
林 正彦	東京大学大学院理学系研究科教授	連携会員
福島 登志夫	自然科学研究機構国立天文台教授	連携会員
牧島 一夫	東京大学大学院理学系研究科教授	連携会員
森 正樹	立命館大学理工学部教授	連携会員

○ 委員の決定（追加8件）

（ 地域研究委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
羽場 久美子	青山学院大学大学院国際政治経済学研究科 教授・総合研究所プロジェクト研究代表	第一部会員

（ 政治学委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小野 耕二	名古屋大学大学院法学研究科教授	連携会員

（ 環境学委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
大政 謙次	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第二部会員
那須 民江	名古屋大学大学院医学系研究科教授	第二部会員
西澤 直子	石川県立大学生物資源工学研究所教授	第二部会員

（ 数理科学委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
竹村 彰通	東京大学情報理工学系研究科教授	連携会員

（ 化学委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
鈴木 孝治	慶応義塾大学理工学部教授	連携会員

（ 総合工学委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
新井 民夫	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員
伊藤 早苗	九州大学応用力学研究所主幹教授	第三部会員
木村 文彦	法政大学理工学部教授	第三部会員

（ 機械工学委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
萩原 一郎	東京工業大学大学院理工学研究科教授	第三部会員

(電気電子工学委員会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
渡辺 美代子	株式会社東芝経営変革統括責任者	第三部会員
青山 友紀	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特別招聘教授	連携会員
井筒 雅之	東京工業大学大学院総合理工学研究科特任 教授	連携会員
大西 公平	慶應義塾大学理工学部教授	連携会員
大橋 弘美	NTTフォトニクス研究所部長	連携会員
榊 裕之	豊田工業大学学長	連携会員
田中 英彦	情報セキュリティ大学院大学情報セキュリ ティ研究科	連携会員
吉田 進	京都大学大学院情報学研究科教授	連携会員

9	
幹事会	139

提 案

第5回世界科学フォーラム (5th World Science Forum) 出席に係る 会員の派遣について

- 1 提案者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 第5回世界科学フォーラム (World Science Forum) に以下のと
おり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 春日 文子 (副会長、第二部会員)
- 5 用務期間 平成23年11月17日 (木) ～19日 (土)
- 6 派遣場所 ブダペスト (ハンガリー)
- 7 開催趣旨 本フォーラムは、ユネスコとICSUの共催で1999年にハンガリー・
ブダペストで開催された世界科学会議 (World Conference on
Science) を契機として、2003年から2年ごとにハンガリー科学アカ
デミー主催で開催されている。
第5回目となる今回のテーマは「科学の変化する情勢 (The
Changing Landscape of Science) 」である。

[Sign in](#)[Search](#)

Follow Us On

WORLD SCIENCE FORUM
BUDAPEST[HOME](#) [ABOUT US](#) [PROGRAMME](#) [PARTICIPANTS](#) [GALLERY](#) [NEWS](#) [PREVIOUS FORA](#) [CONTACT](#)

PROGRAMME

[download in PDF](#)WSF 2011
TimetableWEDNESDAY
16 NovemberTHURSDAY
17 NovemberFRIDAY
18 NovemberSATURDAY
19 November

WSF 2011 - Budapest

Wednesday, 16 Nov	Thursday, 17 Nov	Friday, 18 Nov	Saturday, 19 Nov
	09:00 OPENING ADDRESSES	09:00 PLENARY SESSION IV. "The Changing Landscape of Science: Policy Implications and Drivers"	
	09:40 UNESCO PRIZE CEREMONY		09:30 PLENARY SESSION VI. "Parliamentary session"
	10:00 PLENARY SESSION I. "The Changing Landscape of Science: Challenges and Opportunities"		
		COFFEE BREAK	COFFEE BREAK
		11:30 PARALLEL THEMATIC SESSION II. Hungarian Academy of Sciences: "Neuroscience and Networks"	11:30 CLOSING PLENARY LECTURES
		11:30 PARALLEL THEMATIC SESSION II. AAAS: "Developing a coherent and compatible science enterprise"	
	COFFEE BREAK		
	12:00 PLENARY SESSION II.: "The Changing Landscape of Science: Emerging Powerhouses in Science and Technology"		
		LUNCH BREAK	13:00 RECEPTION
	LUNCH BREAK		
	14:30 PLENARY SESSION III.: "The Changing Landscape of Science: "Emerging Fields of Science"	14:30 PLENARY SESSION V. "Forum of Global Fora"	
	COFFEE BREAK	COFFEE BREAK	
	17:00 PARALLEL THEMATIC SESSION I. UNESCO: "The Changing Landscape of Science: Higher Education's Perspectives, Dynamics and Implications"	17:00 PARALLEL THEMATIC SESSION III. ICSU: "Forsight Scenarios: What will international science be like in 2031?"	
	17:00 PARALLEL THEMATIC SESSION I. Leopoldina: "Emerging and re-emerging infections"	17:00 PARALLEL THEMATIC SESSION III. Brazil: "Sustainable Food Production"	
19:00 OPENING RECEPTION			
	19:30 RECEPTION	19:30 RECEPTION	

[Back](#)[PRIVACY STATEMENT](#)[SITE MAP](#)[TERMS OF USE](#)[HOME](#)[ABOUT US](#)[PROGRAMME](#)[PARTICIPANTS](#)[GALLERY](#)[NEWS](#)[PREVIOUS FORA](#)[CONTACT](#)

10	
幹事会	139

提 案

第12回アジア学術会議に関するインドネシア科学院との事前打合せに係る 会員の派遣について

- 1 提案者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 第12回アジア学術会議に関するインドネシア科学院等（Indonesian Institute of Sciences: LIPI）との事前打合せについて、以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 白田 佳子（第一部会員、アジア学術会議分科会委員長）
- 5 用務期間 平成23年11月13日（日）～16日（水）
- 6 派遣場所 ジャカルタ、ボゴール（インドネシア）
- 7 開催趣旨 アジア学術会議（Science Council of Asia: SCA）は、日本を含むアジア地域の12カ国20機関のアカデミー等を構成メンバーとして2000年に発足し、翌2001年からメンバー国持回りにより総会を開催している。第12回アジア学術会議は、2012年7月にインドネシア科学院が主催してボゴールで開催予定となっている。
第12回総会開催に先立ち、会場視察を始め、主催機関であるインドネシア科学院等と開催内容等について事前打合せを行うこととする。

11	
幹事会	139

提 案

各地区会議の運営協議会委員の決定について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記について、別紙（案）のとおり決定すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議地区会議運営要綱」（平成17年10月4日第1回幹事会決定）に基づき、各地区の運営及び活動に関する事項を審議・決定する運営協議会を置く必要があるため。

<参考>

●日本学術会議地区会議運営要綱（抄）

（平成17年10月4日
日本学術会議第1回幹事会決）

定

改正 平成17年11月24日日本学術会議第 5回幹事会決定
平成18年 2月23日日本学術会議第 9回幹事会決定
平成19年 9月20日日本学術会議第42回幹事会決定

（地区会議運営協議会及び事務局）

第6 各地区に地区会議運営協議会を置き、当該地区の運営及び活動に関する事項を審議・決定する。

- 2 各地区に所属する会員は、互選により9名以内の地区会議運営協議会委員を選出する。その際、委員が特定の部に偏らないように配慮する。ただし、地区会議運営協議会から科学者委員会に要請があった場合は、科学者委員会及び幹事会の議を経て、当該地区に所属する会員又は連携会員の中から地区会議運営協議会委員を追加することができる。なお、委員の追加を認める場合も地区会議運営協議会の委員総数は12名を超えないものとする。
- 3 地区会議運営協議会は、互選により会員である委員の中から代表幹事1名を選出する。代表幹事は各地区会議運営協議会を主宰する。

（後略）

第 22 期北海道地区会議運営協議会委員（案）

◎は代表幹事

氏 名	ふりがな	区 分	所属・職名
仲 真紀子	なか まきこ	第一部会員	北海道大学大学院文学研究科教授
吉田 克己	よしだ かつみ	第一部会員	北海道大学大学院法学研究科教授
上田 一郎	うえだ いちろう	第二部会員	北海道大学理事・副学長
戸塚 靖則	とつか やすのり	第二部会員	北海道大学大学院歯学研究科特任教授
◎野口 伸	のぐち のぼる	第二部会員	北海道大学大学院農学研究院教授
本間 さと	ほんま さと	第二部会員	北海道大学大学院医学研究科特任教授
氷見山幸夫	ひみやま ゆきお	第三部会員	北海道教育大学教育学部教授
長澤 秀行	ながさわ ひでゆき	連携会員	帯広畜産大学学長
中島 秀之	なかしま ひでゆき	連携会員	公立はこだて未来大学理事長
西村 正治	にしむら まさはる	連携会員	北海道大学大学院医学研究科教授
船水 尚行	ふなみず なおゆき	連携会員	北海道大学大学院工学研究院教授
山中 康裕	やまなか やすひろ	連携会員	北海道大学大学院地球環境科学研究院教授

第 22 期東北地区会議運営協議会委員（案）

◎は代表幹事

氏 名	ふりがな	区 分	所属・職名
野家 啓一	のえ けいいち	第一部会員	東北大学理事・附属図書館長・同大学大学院 文学研究科教授
山川 充夫	やまかわ みつお	第一部会員	福島大学学長特別補佐
◎大隅 典子	おおすみ のりこ	第二部会員	東北大学大学院医学系研究科教授
山下 俊一	やました しゅんい ち	第二部会員	福島県立医科大学副学長
吉川 泰弘	よしかわ やすひろ	第二部会員	北里大学獣医学部教授
岡田 益男	おかだ ますお	第三部会員	独立行政法人国立高等専門学校機構八戸工 業高等学校校長
栗原 和枝	くりはら かずえ	第三部会員	東北大学多元物質科学研究所教授
森田 康夫	もりた やすお	第三部会員	東北大学教養教育院総長特命教授
吉野 博	よしの ひろし	第三部会員	東北大学大学院工学研究科教授
石尾 俊二	いしお しゅんじ	連携会員	秋田大学教授
佐藤れえ子	さとう れえこ	連携会員	岩手大学農学部教授
山下 英俊	やました ひでとし	連携会員	山形大学医学部長・眼科学講座教授

第 22 期関東地区会議運営協議会委員（案）

◎は代表幹事

氏 名	ふりがな	区 分	所属・職名
◎小松 久男	こまつ ひさお	第一部会員	東京大学大学院人文社会系研究科教授
杉田 敦	すぎた あつし	第一部会員	法政大学法学部教授
羽場久美子	はば くみこ	第一部会員	青山学院大学大学院国際政治経済学研究科教授・ 総合研究所プロジェクト研究代表
福田 裕穂	ふくだ ひろお	第二部会員	東京大学大学院理学系研究科教授
室伏 きみ子	むろふし きみこ	第二部会員	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授
山本 正幸	やまもと まさゆき	第二部会員	かずさDNA研究所所長
家 泰弘	いえ やすひろ	第三部会員	東京大学物性研究所所長・教授
岡野 光夫	おかの てるお	第三部会員	東京女子医科大学先端生命医科学研究所所長・教 授
渡辺美代子	わたなべ みよこ	第三部会員	株式会社東芝経営変革統括責任者

第 22 期中部地区会議運営協議会委員（案）

◎は代表幹事

氏 名	ふりがな	区 分	所属・職名
野村 眞理	のむら まり	第一部会員	金沢大学経済学経営学系教授
高橋 雅英	たかはし まさひで	第二部会員	名古屋大学大学院医学系研究科教授
◎ 巽 和行	たつみ かずゆき	第三部会員	名古屋大学物質科学国際研究センター長
江崎 孝行	えざき たかゆき	連携会員	岐阜大学大学院医学系研究科教授
小嶋 智	こじま さとる	連携会員	岐阜大学工学部教授
後藤 俊夫	ごとう としお	連携会員	中部大学副学長
鈴木 滋彦	すずき しげひこ	連携会員	静岡大学農学部教授・農学部長
竹田 敏一	たけだ としかず	連携会員	福井大学附属国際原子力工学研究所長・教授
西村 直子	にしむら なおこ	連携会員	信州大学経済学部教授
春山 成子	はるやま しげこ	連携会員	三重大学大学院生物資源学研究科教授
松井 三枝	まつい みえ	連携会員	富山大学大学院医学薬学研究部准教授
宮地 充子	みやじ あつこ	連携会員	北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科 附属図書館長教授

第 22 期九州・沖縄地区会議運営協議会委員（案）

◎は代表幹事

氏 名	ふりがな	区 分	所属・職名
◎ 吾郷 眞一	あごう しんいち	第一部会員	九州大学大学院法学研究院教授
河野 正憲	かわの まさのり	第一部会員	福岡大学法科大学院教授
木下 尚子	きのした なおこ	第一部会員	熊本大学文学部教授
箱田 裕司	はこだ ゆうじ	第一部会員	九州大学大学院人間環境学研究院教授
古谷野 潔	こやの きよし	第二部会員	九州大学大学院歯学研究院教授
前原 喜彦	まえはら よしひこ	第二部会員	九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科教授
伊藤 早苗	いとう さなえ	第三部会員	九州大学応用力学研究所主幹教授
尾家 祐二	おいえ ゆうじ	第三部会員	九州工業大学理事・副学長
高原 淳	たかはら あつし	第三部会員	九州大学先導物質化学研究所教授

12	
幹事会	139

提 案

「第1回計算力学シンポジウム」の開催について

1. 提案者 総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：
日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2. 共 催：
日本機械学会、日本応用数理学会、日本計算工学会、日本シミュレーション学会、**JACM (Japan Association for Computational Mechanics)**、日本計算数理工学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合
3. 日 時：
平成23年11月11日（金）13：00～18：00
4. 場 所：
日本学術会議講堂
（東京都港区六本木7-22-34、東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口）
5. 開催趣旨：
我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、まず、各学会を代表する若手が最近の成果を披露する。続いて、各学会の代表者によるパネルディスカッションでは、国際連携、国際貢献について議論する。以上を、計算力学に関する日本の研究成果を世界に発信し、国際社会における日本の計算力学分野の態勢を検討する材料とする。
6. 次 第：
13：00 開会の辞

矢川元基（日本学術会議連携会員・東洋大学大学院工学研究科 教授、計算力学研究センター長）

13 : 10 講演 1（日本機械学会計算力学部門）

小林宏充（慶應義塾大学）

「LES における乱流構造に基づく SGS モデルの開発」

13 : 40 講演 2（日本応用数理学会）

多田野寛人（筑波大学大学院システム情報工学研究科）

「高精度近似解を生成する Block Krylov 部分空間反復法とその安定化」

14 : 10 講演 3（日本計算工学会）

澤田有弘（産業技術総合研究所）

「流体構造連成解析を軸に国内外へ Contribution のある研究を目指して」

14 : 40（休憩）

14 : 50 講演 4（日本シミュレーション学会）

五十嵐潤（理研／ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン）

「GPU によるデータ並列とタスク並列: 大規模基底核モデルの実時間実行への応用」

15 : 20 講演 5（JACM: Japan Association for Computational Mechanics）

今井陽介（東北大学）

「計算バイオメカニクスの GPU 計算への展開」

15 : 50 講演 6（APACM: Asia Pacific Association for Computational Mechanics）

荻野正雄（名古屋大学）

「大規模構造解析の高速化とその応用」

16 : 20（休憩）

16 : 30 パネルディスカッション

パネリスト：

萩原一郎（日本学術会議会員・東京工業大学／日本応用数理学会）

大富浩一（日本学術会議連携会員 東芝／日本計算工学会）

小山田耕二（日本学術会議連携会員 京都大学／日本シミュレーション学会）

宮崎則幸（日本学術会議連携会員 京都大学／JACM）

松本敏郎（名古屋大学／日本計算数理工学会）

檜山和男（中央大学／アジア太平洋計算力学連合）

矢川元基（日本学術会議連携会員・東洋大学／国際計算力学連合）

司会： 梶島岳夫（大阪大学／日本機械学会計算力学部門）

17 : 50 閉会の辞

萩原一郎（日本学術会議会員・東京工業大学大学院理工学研究科 教授）

18 : 00 閉会

7. 関係部の承認の有無： 第三部承認

13	
幹事会	139

提 案

公開シンポジウム「福島原子力発電所事故への科学者の役割と責任について」の開催について

1. 主 催 日本学術会議、科学技術振興機構研究開発戦略センター(CRDS)
2. 後援(予定) 日本原子力学会、日本機械学会、日本化学会、土木学会、日本原子力研究開発機構
3. 日 時 平成23年11月26日(土) 10:00～17:00
4. 場 所 日本学術会議講堂

5. 開催趣旨

東京電力福島第一原子力発電所の事故は未曾有の大事故であり、これへの対応は、我が国の将来に大きな影響を与えることになる。その対応において科学者が果たすべき役割は大きく、科学者および科学者コミュニティの責任でもある。対応は長期間を要することになるが、科学者が有する知識や経験が、分野、組織、世代、国を越えて、課題の解決に向けて総合的に発揮できる仕組みを構築すること、科学者が市民や国、自治体などのニーズや期待に的確に応えていくこと、科学者が十分な情報を踏まえて対応できることなど、今後、科学者を含む関係者が一体となって持続的に取り組んで行くことが必須と考える。

このような視点から、本シンポジウムを通して、この事故に対する科学者の役割と責任のあり方について議論を深める。

6. 次 第

(1) 10:00～10:20 [開催挨拶]

10:00～10:10 趣旨説明 (吉川弘之 CRDSセンター長)

10:10～10:15 主催者挨拶 (大西隆 日本学術会議会長／東京大学大学院工学系研究科教授)

10:15～10:20 来賓挨拶 (未定)

(2) 10:20～11:50 [基調講演と報告]

10:20～10:40 事故の全容に関する報告

- 広瀬研吉（内閣府参与／東海大学国際教育センター特任教授）
- 10:40～11:10 基調講演1 「原子力と社会との関わり～米国を例に」
Kevin Crowley（Senior Board Director, Nuclear and Radiation Studies Board, National Academy of Sciences）
- 11:10～11:30 基調講演2 「日本学術会議の対応、科学者の貢献」
矢川元基（日本学術会議連携会員／東洋大学計算力学研究センターセンター長・教授）
- 11:30～11:50 基調講演3 「福島原発後の放射線防護対策－リスクコミュニケーションの担い手は？－」
佐々木康人（日本学術会議連携会員／(社)日本アイソトープ協会常務理事）

[11:50～13:00 昼食]

(3) 13:00～14:30 [講演 - 各分野からの貢献]

- 13:00～13:15 原子力分野からの貢献 田中知（東京大学大学院工学系研究科教授）
- 13:15～13:30 化学分野からの貢献 岩澤康裕（日本学術会議連携会員／電気通信大学燃料電池イノベーション研究センター長・特任教授）
- 13:30～13:45 土木分野からの貢献 米田稔（京都大学大学院工学研究科教授）
- 13:45～14:00 機械分野からの貢献 白鳥正樹（日本学術会議連携会員／横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター特任教授）
- 14:00～14:15 放射線医学分野からの貢献 草間朋子（大分県立看護科学大学学長）
- 14:15～14:30 経済学分野からの貢献 黒田昌裕（東北公益文科大学学長）

[14:30～15:00 休憩]

(4) 15:00～16:50 [パネルディスカッション]

<モデレーター>

有本建男 CRDS副センター長、科学技術振興機構社会技術研究開発センター長

<パネリスト>

- ・ Kevin Crowley（Senior Board Director, Nuclear and Radiation Studies Board, National Academy of Sciences）
- ・ 石田寛人（金沢学院大学名誉学長）
- ・ 草間朋子（大分県立看護科学大学学長）
- ・ 城山英明（東京大学大学院法学政治学研究科教授）
- ・ 保坂直紀（読売新聞東京本社科学部次長）
- ・ 田中知（東京大学大学院工学系研究科教授）

(5) 16:50～17:00 [今後に向けての総括]

16:50～17:00 総括講演（吉川弘之 CRDS センター長）

7. 備考

○本シンポジウムは、日英同時通訳で行う。

14	
幹事会	139

提 案

「東日本大震災—いま、これから求められる看護系学会の活動 Part II—」
の開催について

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会、日本看護系学会協議会
2. 後 援：日本看護科学学会
3. 日 時：平成 23 年 12 月 3 日（土）16:40～18:00
4. 場 所：高知市文化プラザかるぼーと
（高知市九反田 2-1）
5. 分科会：開催予定
6. 開催趣旨：

看護学分科会では、平成 23 年 7 月 23 日に日本看護系学会協議会と共催で「東日本大震災—いま、これから求められる看護系学会の活動」と題して緊急シンポジウムを開催した。看護系学会における災害発生直後から被災地における健康ニーズの把握、支援者の活動支援、被災者支援に関わる情報共有と課題を検討することができた。さらに、甚大な被害をもたらしている東日本大震災に対し、中・長期的視点をもって具体的な支援方略を検討する必要があるため第 2 段のシンポジウムを開催することを計画している。

7. シンポジウム次第

座 長：片田範子（日本学術会議連携会員、兵庫県立大学看護学部学部長・教授、看護系学会協議会）

川嶋みどり（看護系学会協議会監事）

シンポジスト：

1. 日本災害看護学会から 山田 覚（日本災害看護学会理事長）
2. 日本精神看護学会から 田中 美恵子（日本学術会議連携会員、東京女子医科大学看護学部長・教授）
3. 日本赤十字看護学会から 小原 真理子（日本赤十字看護大学国際・災害看護学領域教授）
4. 兵庫県立大学地域ケア研究所 WHO 災害と健康危機管理に関する看護協力センターから 山本 あい子（日本学術会議連携会員、兵庫県立大学地域ケア開発研究所所長・教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

15	
幹事会	139

提 案

「第3回科学技術人材育成シンポジウム」の開催について

1. 提案者：土木工学・建築学委員会委員長、機械工学委員会委員長
2. 議 案：標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会、機械工学委員会
日本工学会（科学技術人材育成コンソーシアム）
2. 共 催：科学技術振興機構、日本技術士会、日本工学アカデミー、日本機械学会、電気学会、計測自動制御学会、地盤工学会、日本非破壊検査協会、日本溶接協会、日本建築学会、映像情報メディア学会、日本塑性加工学会、資源・素材学会、日本マリンエンジニアリング学会、日本金属学会、日本顕微鏡学会、軽金属学会、土木学会、日本工学教育協会、日本技術者教育認定機構、日本鉄鋼協会、日本電気工業会、科学新聞社（敬称略）
3. 後 援：文部科学省、経済産業省、国土交通省、日本経済団体連合会、朝日新聞社、河川環境管理財団（いずれも申請予定）
4. 日 時：平成24年1月21日（土） 13時00分～17時00分
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京港区六本木7-22-34）（予定）
6. 分科会の開催：無
7. 趣 旨：今回の未曾有の大震災の被災を一つの契機として、我国の科学技術人材育成の課題を改めて見直すことを目的に、阿部博之東北大学名誉教授による基調講演と「大震災と科学技術人材育成(仮)」と題するパネルディスカッションを行う。パネルディスカッションでは、国・経済界・大学・初等中等教育

界・マスコミの各方面よりパネリストを招き、広い角度からの議論を行なう。
このほかに一般講演として、各方面での理科教育についての最新の実践事例
を紹介する。

8. 次 第

総合司会：笠木 伸英（日本学術会議連携会員、コンソーシアム副代表）

松井 幹彦（コンソーシアム幹事）

(1) 開会挨拶 池田駿介（日本学術会議連携会員、コンソーシアム代表）

…… 13：00～13：05

(2) 基調講演 「東日本大震災と科学技術人材育成(仮)」

東北大学名誉教授 阿部博之 …………… 13：05～13：30

(3) 理科教育支援における新しい試み—事例紹介(仮)

…… 13：30～15：10

1. 「大震災に関連した理科教育支援(仮)」 河川環境管理財団

2. 「理科・エネルギー教育の最近の動き」 科学技術振興機構

3. 「電気学会における初等中等教育支援(仮)」 電気学会教育支援部会

4. 未定

5. 「STeLA の活動紹介(仮)」 STeLA (Science and Technology
Leadership Association)

(質 疑)

(15：10～15：20 休 憩)

(4) パネルディスカッション「大震災と科学技術人材育成(仮)」

……15：20～16：50

コーディネーター：有信 睦弘（日本学術会議会員、コンソーシアム顧問）

パネリスト：下記行政機関、教育機関、団体からそれぞれ1名のパネリス
トの派遣をお願いします。

文部科学省、大学、高等学校、全国中学校理科教育研究会、全国小
学校理科研究協議会、経済団体連合会、新聞社

(5) 閉会挨拶 松瀬 貢規（コンソーシアム副代表）

…… 16：50～17：00

9. 関係部の承認の有無:第三部承認

16	
幹事会	1 3 9

提 案

「第61回理論応用力学講演会」の開催について

1. 提案者 機械工学委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議機械工学委員会、土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会
2. 共 催（予定）：応用物理学会、化学工学会、地盤工学会、土木学会、日本応用数理学会、日本風工学会、日本機械学会、日本気象学会、日本計算工学会、日本建築学会、日本原子力学会、日本航空宇宙学会、日本材料学会、日本地震工学会、日本数学会、日本船舶海洋工学会、日本伝熱学会、日本物理学会、日本流体力学会、日本レオロジー学会、農業農村工学会
3. 日 時：平成24年3月7日（水）～9日（金）（3日間）
4. 場 所：東京大学生産技術研究所
（東京都目黒区駒場 4-6-1）
5. 分科会の開催：機械工学委員会、土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会
6. 開催趣旨：
「理論応用力学講演会」は力学に関する最も権威ある国際組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として長年開催されてきた。力学分野が細分化する中で、各々の分野の先端的研究成果に関する最新動向を共有するとともに、各分野が共通に抱える問題や将来への展望についても分野を超えて情報交換することが本講演会開催主旨である。
7. 次 第：
開催日の最初に、日本学術会議 機械工学委員会、土木工学・建築学委員会合同 IUTAM

分科会委員長の挨拶を行うとともに、分科会委員等学術会議会員，連携会員を中心として，東日本大震災から得られた教訓と，力学が果たすべき役割などに関するパネル討論を実施する予定である。

(1) 挨拶

3月7日(水) 13:00～13:15

日本学術会議 機械工学委員会，土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会委員長
小林敏雄（日本学術会議連携会員・財団法人日本自動車研究所副理事長）

第 61 回理論応用力学講演会運営委員会委員長

吉村忍（日本学術会議連携会員・東京大学教授）

(2) 特別講演(学協会からの推薦を受けて3件を選定予定)

3月7日(水) 13:15～15:15

(3) パネルディスカッション

3月8日(木) 14:30～17:00

「東日本大震災の教訓と力学が果たすべき役割について」(仮題)
下記委員会等メンバーを中心に企画し，課題について討論を行う。

岸本喜久雄（日本学術会議会員・東京工業大学教授）

松尾亜紀子（日本学術会議連携会員・慶應義塾大学教授）

吉村忍（日本学術会議連携会員・東京大学教授）

(4) 研究発表（一般公募）

3月7日(水) 9:30～12:00 5室，研究発表 30件

15:45～16:45 5室，研究発表 15件

3月8日(木) 9:30～12:00 5室，研究発表 30件

3月9日(金) 9:30～12:00 5室，研究発表 30件

13:15～17:15 5室，研究発表 45件

8. 関係部の承認の有無： 第三部承認

17	
幹事会	139

提 案

国内会議の後援について

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審 議 付 託 先
第9回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム ①主催：男女共同参画学協会連絡会 ②期間：平成23年10月31日 ③場所：筑波大学・大学会館	男女共同参画 学協会連絡会 第9期委員長 跡見順子	科学者委員会 各部
人文地理学会地理学公開セミナー「東日本大震災からの 復旧・復興—地理学からの提言・地理学への提言」 ①主催：人文地理学会 ②期間：平成23年11月12日 ③場所：立教大学池袋キャンパス	人文地理学会 会長 山野正 彦	第一部